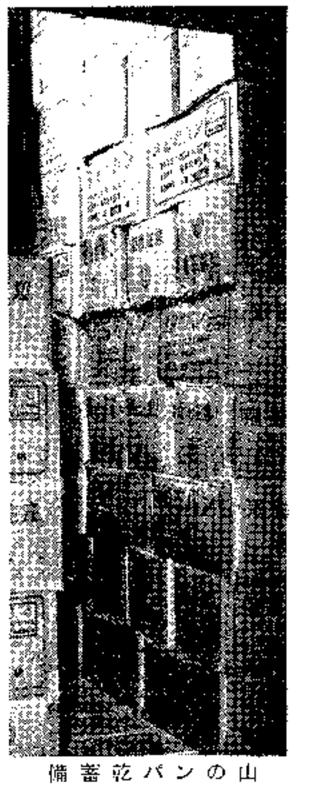
近づく台風シーズン 災害救助対策まとまる


備蓄乾パンの山

最悪事態を予想して計画

近づく台風シーズンに備えて災害救助計画がまとまりました。この計画は最悪の場合—高潮による被害及び淀川、大和川が決壊して洪水となった場合を想定し、被災者五十万人、十二万五千世帯と見込んで立てられたもので、おもな点は—

◆情報連絡…通信と絶の恐れがある大阪港、淀川、大和川に接している八区（此花、港、大正、西淀川、東淀川、旭、住吉、東住吉）には、超短波無線装置で正確な情報を送り、区役所から赤十字奉仕団のご協力を得て末端まで徹底させる。同時に、市の広報車九台を市役所に待機させ、いざという場合には民間から借り上げる宣伝車とともに出動させる。

避難所は百八十九カ所

◆避難所…鉄筋校舎を主体に全市で百八十九カ所を指定。

◆救援物資…米は市内七カ所に百五十六トン（百三十万食分）、乾パン三十トン（二十二万食分）を貯蔵する一方、日常生活品として毛布一万三千枚、ムシロ一万四千枚、ローソク十三万七千本のほか、マッチ、なべ、かまなどを市役所、区役所に備える。

◆輸送力…市のトラック三百二十九台のほか陸運事務所とも密接な連絡をとり、必要数を確保するとともに、救助用にも役立つ民間業者のボート四百隻を借り上げる。

柴島浄水場は自家発電装置で

◆給水…停電の場合、柴島浄水場は自家発電に切りかえ、上水を確保すると共に、給水自動車などを動員して一日五百立方メートル（約十万人分）を給水する。

◆衛生…災害発生と同時に災害行動隊四十五隊、防疫行動隊消毒班九十班、予防行動隊四十五隊及び民間医療団を組織して治療と伝染病予防に当る。

◆清掃…なお、あくたが十万トン出るものと見て、一日にトラック二百五十台を動員して、十九日で完了する。ふん尿は、二十九万石と見込んで、減水後七日間でくみ取を完了する。

太平洋を渡る大ちょうちん サンフランシスコへお返し

太平洋を越えて、はるぐサンフランシスコに渡る大ちょうちんが出来上りました。高さ三メートル、直径一・二メートルという大きなもので朱色の地に下部に白で波頭をえがき黒く太に「贈サンフランシスコ市」、裏に市章と「大阪市」が書かれています。

これは四月、大阪で国際見本市が開かれたとき、姉妹提携を結んでいる同市から産業振興使節団長D・K・トリップ氏を通じてカリフォルニアの風景画が大阪市に贈られましたので、そのお返しとして作ったものです。六月十九日に神戸港を出港したP・ウイルソン号に託しましたので、七月三日には、サンフランシスコ市に着きます。

なお、これといっしょに五月に開催された「世界のこどもと手をつなぐ絵画交換会」に入選した児童画二十点も贈りました。（写真—ちょうちんに見入る中井市長）

延四千人を動員 違反広告物を一掃

大阪市では、去る六月十六日から約一カ月の予定で、失業対策事業として、市内にはり出されている期限ぎれのポスター、違反ポスター、破れて見苦しいポスターなどの清掃を行っています。

はっきりした数字はつかめませんが、現在、市内に掲出されているこれらのポスターは、さきの衆議院議員総選挙のときのポスターを含めて四、五万枚はあるだろうと思われ、都市の美観をいちじるしく損っているため市できれいにそうじしようということになったものです。

市内では、特定の施設や道路にははってはならないことになっており、また、正しくはられたポスターも期限がすぎると広告された方々の手できれいに取り除いていただくことが望ましいのですが、どうもほっておかれる方が多いようです。こんどの清掃には、百万円以上の費用がいりますが、こういうムダがないようポスターを掲出するときは必ず区役所へ相談していただくようお願いします。

ポスターの清掃作業

警備力を増強 消防 救出車など35台

【消防局】では昨年の秋からポンプ車を初め機動力の増強につとめてきましたが、このほど三十五台の新車ができあがり、各署に配置されました。とくに、目新しいものは—

・救出車…救急車が病人の輸送を主としていたのにくらべて、これは現場での人命救出を目的としたもの。救命用具一式のほかに無線装置もあり、とくに、乗用車のシャーシーを使っているためせまい路路にもはいれます。二台出来上り、東と東住吉に配置されました。

・放水塔車…大阪市で三台目で塔をのばしたときの長さは十五米です。変った点は、塔の枠組が四角形から三角形になったことで、重量が軽くなっただけでなく、放水時の反動力が三角形の頂点で受けられるので合理的になりました。また、塔が回転式の操作台に取付けられ、どの方向にも自由に伸縮できます。一台つくられ、南消防署に配属されました。【写真—新救出車】

各区で家庭を明るくする懇談会

【公聴課】では六月から「家庭を明るくする懇談会」を各区で開いています。

この催しには、各区の婦人約五十名、市側から助役、各局長、区長などが出席し、おもに、生活保護、児童、老人、未亡人、身体障害者の福祉、遺家族援護、学校教育、社会教育、青少年問題など家庭生活に深い関係がある問題について意見を交換することになっています。十一月末までには、全区で行います。

各区だより

タオルで鉢巻してフロ入り —港—此花

港区の築港こども会と此花区の高見地区連合こども会の会員はフロ屋で湯ぶねにはいる時には、タオルで鉢巻をします。

これは、同こども会がフロ屋の湯の細菌調査を行ったところ細菌の多いのにおどろいて、湯の中にタオルをいれないようにしようと申し合わせて鉢巻運動をはじめたのです。

市民の声はダイヤル(27)四四五五へ

大阪物語 (4)

川端直正

中世の大阪

上代の浪速は応神・仁徳・孝徳・聖武の諸帝の皇都となって、非常な繁栄振りを示した。また、大和に都があった時も、その港として、外国からの船は必ず難波津に立寄ることとなって、高い文化の香りをただよわせた。

しかし、桓武天皇の時代に、奈良から京都に都が移り、新しく淀川が脚光をあびることとなった。天平の時代、北から流れる淀川と南から流れる大和川について二つの大工事があった。

地図をひろげると、本市の東北端に江口（東淀川区）というところがある。江口とはこのあたり一帯が海であったころ、淀川の出口すなわち難波江の口であったところから名付けられたというが、ここには名高い江口の君堂がある。

平家没落ののち、平資盛の娘妙ノ前が、この里で遊女におちぶれていた折たまたま西行法師が天王寺参詣の途すがら、夕時雨にゆきくれて、あやしげな賤が家に立寄り、時雨待の間の仮の宿を乞うた時、あるじの遊女が許す気色もなく、西行なんとなく

「世の中をいとふまでこそかたからめ、仮のやどりをおしむ君かな」

と詠んだところ、あるじの遊女はほほえんで、

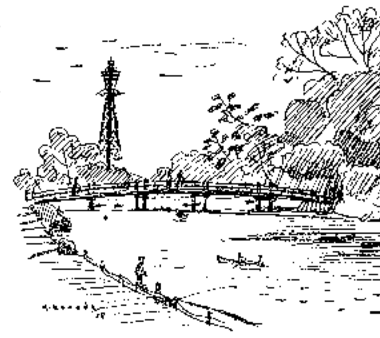
「世をいとふ人としきけば仮のやどに、心とむなとおもふばかりぞ」

と返して、遂に一夜を歓にあかしたという話がある。いまは神崎川（もと三国川）と淀川がここで分れているが、これは桓武天皇の時の工事で結ばれたものである。この結果、瀬戸内海よりする船は浪速を通らず、大物・神崎・加島などを経て江口より京に上り、これが市内の浪速の衰退する原因ともなり、反対にこうした場所が非常な賑わいを示した。

いま一つの工事としては、河内川（いまの平野川）を上町台地を横切って天王寺河堀口から東中浜南側を経て、美術館北側の河底池に入れ、さらに台地の下では猫間川（いたちがわ）を掘ってこれに流し、もって東大阪一帯の泥濘を救おうとするものであった。この工事は、名高い和気清麻呂が、まず大道三丁目の河堀稲生神社に籠って成功を祈ったのち、上工二十三万余人を使って大いに力をつくしたが、結局失敗に終った。いまも茶臼山・河底池から東中浜にかけて凹地となっているのはこの折の名残りだといわれる。ついでながら、阿倍野橋下の凹地は、明治二十年鉄道が開通する時に、勾配をなくすために掘られたために出来たもので、もちろん徳川時代に阿倍野橋はなかった。

平安中期以降、鎌倉時代にかけて四天王寺・住吉神社、さらには遠く高野山・熊野へ参詣する信仰の厚い老幼男女が、上町台地の稜線である熊野街道を往来し、四天王寺・住吉神社には鳥羽・後白河法皇の行幸があり、建久六年（一一九五年）には頼朝も政子を伴って天王寺に参詣した。天王寺区夕陽丘に墓のある藤原家隆（新古今集の撰者）につぎの歌がある。

契あれは難波の里に移り来て波の入日を拝みつるかな


天王寺公園の茶臼山と河底池

短信

中央 児童相談所（元中央区役所内）は北区[illegible]北ノ町18へ新築移転。業務は児童の保護・家庭・教育・知能判定ほか

たそがれコンサート 天王寺音楽堂で10日～17日まで毎夜、中ノ島公会堂で8月6日～10日、15日 演奏大阪市音楽団ほか

大阪城天守閣夜間営業 7・8月中9時まで（入場8時半まで）料金大人40円・小人15円

固定資産税・都市計画税第2期分納期限7月25日 納期限までに区役所・銀行・郵便局へ

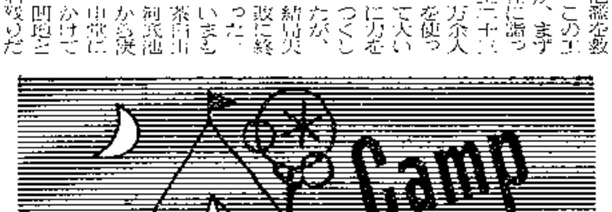
アルバイト（市立大学生）家庭教師・夏休みの勉強指導などに応ずる 申込は市立大学学生課

自衛官募集

二等陸士・二等海士・二等空士 受付7月21日まで 詳細問合せは区役所庶務課へ

七月十五日～八月十二日
ただし、日曜日、天神祭（七月二十五日）、住吉祭（八月一日）を除く

▼注意事項
・ごみは午前中に指定の場所へ
・通風をよくし、畳、夜具は日光にさらす
・ごみ箱はフタつきのものにする
・便所のくみ取口、落し口にフタをつける
・この機会に下水のみぞそうじ、雑草抜き、水たまりを埋めるなど、環境整備を行う
・そうじ日は前もってビラでお知らせします

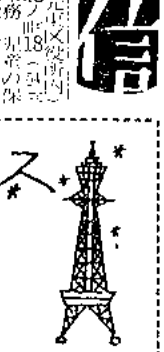


青少年団体・一般勤労青少年・学校児童生徒とその両親のための

信太山教育キャンプ場

国鉄阪和線信太山下車自衛隊ゆきバス下車500M

●用具使用料は無料 テント・付属器具、毛布、クッカーセット、遊び道具など ただし、薪、むしろ等の消耗品代として1人1泊2日＝40円 2泊3日＝50円
●5人以上の団体申込みのこと、土曜・日曜は主として青年会・勤労青少年に、その他は学校生徒・子供会に提供します
●お申込は市教育委員会社会教育課（市役所4階）へ

夕涼み遊覧バス


観光船で港内めぐり
大阪城または通天閣から大阪城の展望—
大人200円　小人130円　7・8月中
毎夕　梅田・天王寺駅前発車
お申込は市営観光バス案内所へ